

令和2年度使用教科用図書選定にかかる専門調査会調査結果（第4地区）

書 写		東京書籍
総 評		<p>最初に書写の学び方「見つけよう」「たしかめよう」「生かそう」「話し合おう」「広げよう」が図や写真を使って分かりやすく示されている。また、「書写のかぎ」として、その学年の課題が同じく最初に示されている。</p> <p>単元設定に工夫がなされており、「もじのいずみ」では、文字の文化に興味・関心が高まるように、「生活に広げよう」日記・連絡帳・観察記録・実験記録・新聞・リーフレット・ポスター等の他教科の基礎となる内容が盛り込まれている。そして、また、「横書き」の書き方に力を入れて指導できるようになっている。</p>
特に優れている点	1 大阪市教育振興基本計画等との関連	<ul style="list-style-type: none"> ○ 課題と成果の見える化がなされている。何ができるようになるかを意識した指導ができる。① ○ それぞれの時期の発達の特性に即し、その段階における教育の可能性を最大限に生かすことができるよう工夫されている。② ○ 一人ひとりが学ぶことに興味・関心を持ち、見通しを持って粘り強く取り組むことができる。④ ○ 読み手に分かりやすくどのように書くかという相手意識を持ちやすくしている。③ ○ 鉛筆の持ち方や左手の紙を押さえる位置がわかりやすく書かれている。1、2年生の水書用筆の書き方が詳しく書かれている。① ○ 点画の書き方が大きな字でわかりやすく示されている。筆順に焦点を当てた内容が多く盛り込まれていて、丁寧な指導ができる。低学年の水書筆を用いた指導により、点画の種類、終筆の止め、はね、はらいを低学年から指導ができ、書くときの細かな動作の習得に効果が期待できる。そのことにより、「丁寧に書く」ことができるようになる。また、毛筆の初期指導にスムーズにつながるよう工夫されている。② ○ 中学年では、手書き文字と活字についての説明があり、生活に役立つ内容が盛り込まれている。このことにより、点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して書くことに着目する児童を育てることができる。③ ○ 整った字を書くための原理（要素）が分かりやすく示されている。原理を守った例と守っていない例を見比べられるように並列で示すなど、視覚的に捉えやすくしている。特に、行の中心と行間、文字の大きさ等を縦書きと横書き両方を同時内に指導できるように示されている。④ ○ 児童が整った字を書くための原理を理解し、話し合う場面を想定した単元設定がなされている。「見つけよう」「たしかめよう」「生かそう」「振り返って話そう」の1時間の授業の過程が教科書に明記されており、教師の指示がなくても、児童が自ら学習を進めることができるようになっている。この過程の中で、児童は自ら良い点や修正すべき点を見つけ、自ら修正点を見つけられない児童は、相互に評価し合うことで見つけることができるようになっている。⑤ ○ 毛筆の指導において「とん、すう、ぴたっ」「とん、すう、ぴたっ、すう」等の筆の動きを書き、児童が声に出しながら、書き進めることができるようにしている。筆の速度や動きが分かりやすくなっている。⑥ ○ 分かりやすく効果的に伝える書き方の1つとして、筆記具の選び方が紹介されている。文字の太さ、大きさ、色等により、筆記具の使い分けが分かるように単元が設定されている。また、筆記具だけでなく
	2 内容の取扱い	

	<p>3 外的要素</p>	<p>用紙の選び方についても触れている。⑦</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 製本が丁寧で、表紙（表裏）も丈夫な材質である。表紙は児童に親しみやすい絵が描かれている。① ○ 低学年では、これまで以上に文字の大きさに工夫がなされており、これまでになく大きな字が使われている。② ○ ページ割りが見開き2ページで構成されており、見やすい③。 ○ 挿絵や写真が鮮やかで、大きすぎず、全体のバランスが取れている。④ ○ 薄い桃色、薄いオレンジ色、薄い水色、薄い黄緑等を各学年により基調とする色を分け、目に優しいデザインで、読みやすいものになっている。④
	<p>4 構成・配列</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年の目標や内容が視覚的に見えるように示され、学習過程も児童に見えるように示されている。単元配列も国語の教科書との関連が考えられており、教員が使いやすいものになっている。① ○ 低学年に水書用筆を用いた指導を入れたことにより、毛筆の指導がスムーズになり、また、低学年の指導に多様性が生まれた。②
	<p>5 資料・その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 文字の文化について「文字のいずみ」という単元を設定し、写真を使ってわかりやすく書かれていて、興味・関心が高まるように工夫されている。① ○ 水書用紙を教科書につけたことで、活用しやすくしている。②
<p>特に工夫・配慮を要する点</p>	<p>1 大阪市教育振興基本計画等との関連</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 文字や文を正しく整えて書く力が、他の学習や生活の中で生かしていくために、相手意識や目的意識を持たせることが大切であることをもっと強調した方が良い。①
	<p>2 内容の取扱い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 書写用語をまとめたページがあれば、もっと分かりやすい。⑦ ○ 3年生の指導の前半に、いろいろな線を書く指導があるが、いろいろな線を使って絵を描く指導は必要かどうかは、今後検証する必要がある。③
	<p>3 外的要素</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「保護者の皆さまへ」が裏表紙にかかっているが、重要な内容なので、もう少し字を大きくして、保護者へアピールした方が良い。④
	<p>4 構成・配列</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 書く速さについての単元はもう少し多くのページを割いて、重要性をアピールした方が良い。②
	<p>5 資料・その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水書用紙が教科書から取り外して使えないと、教科書を見ながら児童が書くことができない。②

令和2年度使用教科用図書選定にかかる専門調査会調査結果（第4地区）

書 写		学校図書
総 評		<p>学びのプロセスが「学習の進め方」としてはじめに示されており、児童が自ら課題をつかみ、課題の解決に向けて他者と協働的に学習をすすめる、自身の学びを自己・他者評価することができるよう工夫されている。大阪市教育振興基本計画にも示されている児童の主体的・対話的で深い学びをうながす工夫がなされていると感じた。</p> <p>ページ数が低学年からやや多く、児童が書き込む箇所も多いので、学校現場、学年によっては負担感が強くなる場合もあるのではと感じた。</p>
特に優れている点	1 大阪市教育振興基本計画等との関連	<ul style="list-style-type: none"> ○ 裏表紙に保護者に向けて、「単元での学習が児童にとってどのような力が身につくのか」という項目が掲載されており、子どもが安心して学びに向かうことができる環境を学校園・家庭で見出していこうという意識がみられる。① ○ 単元の課題について、キャラクターが問いを出し合うような形式で掲載されており、児童の主体的・対話的な深い学びをうながす工夫がみられる。③ ○ 学習のまとめに「ふりかえり」の時間が設定されており、学習に関しての自己評価や、日常にどのように生かすことができるのかといった思考を促す工夫がみられる。③
	2 内容の取扱い	<ul style="list-style-type: none"> ○ 鉛筆の持ち方が「持った後の様子の確認」だけではなく、「持つにいたる過程」が写真付きで示されており、指導が行いやすい工夫がされている。① ○ 低・中学年では欄外に新出漢字の筆順を色分けして記述してあり、筆順に関して丁寧な指導を行うことができる。② ○ 穂先の動きと点画のつながりを「書き方のカギ」として強調したうえで、白抜きで掲載されており、児童にとって感覚的にもとらえやすいものになっている。⑤ ○ 「トン・スーッ・ピタ！」と始筆・送筆・終筆の筆使いと、その速さを音で表すことにより、児童にとって筆使いを感覚的につかませる工夫がみられる。またその記述を「書き方のカギ」と強調することにより、児童が筆使いについて意識して取り組むことのできる配慮もなされている。⑥ ○ 低学年から筆記具についての記述があり、特に5年生では「目的にあった筆記具を使おう」と、8種類の筆記具を例として出しながらも、「ノートやメモ、ポスターなどではどの筆記具がふさわしいのか」答えは書かず、児童に考えさせる工夫がみられる。⑦
	3 外的要素	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中・高学年の毛筆の手本では半紙と同じサイズの手本が見開きで示されており、児童にとって実際に書く文字と同じ感覚で手本を見ることができる。② ○ 目に優しい、淡い色を主とした配色がなされており、またその色分けも「試す」「考える」「いかす」「見方・考え方」「振り返り」の5色に内容によってなされている。③ ○ QRコードが教科書に記載されており、「すみのすり方」などが動画で確認することができる。④
	4 構成・配列	<ul style="list-style-type: none"> ○ 書写で身につけた資質・能力を他の学習にいかす場面が、調べ学習したことを「新聞・模造紙にまとめてみよう」などと設定されており、教科横断的な視点がみられる。①
	5 資料・その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1年生の練習内容に「いかのおすし」がみられるなど、その学年に沿った日常生活との関連を意識した、学習意欲を引き出す工夫がみられる。②

		○ 最近の J-pop の歌詞を視写する学習を取り入れるなど、児童の興味関心を引き出す教材づくりへの配慮がみられる。②
特に工夫・配慮を要する点	1 大阪市教育振興基本計画等との関連	○ 学年の最後のまとめのページに「年間を通しての自身の学習を自己評価する場面」が設定されておらず、書写の学習を通して自身が何の力を、どのようにして身につけたのかということが児童にとって感じにくい。④
	2 内容の取扱い	○ 高学年になるにしたがって、過去に学習した「書写に関する語句」が多くなり、配慮を要する児童にとっては自学が難しいように感じる。巻末などに語句をまとめたり、学習した学年を記述したりするなどの内容があればいいと感じた。
	3 外的要素	○ 1年生においても6年生と同じ50ページと、ページ数が多く、やや内容の詰め込み過ぎがみられる。①
	4 構成・配列	○ 学習の振り返りを教科書に記載するよう構成・配列をしているため、教科書に児童が書き込む点が多くなっている。1時間の学習の中で児童にとっての過度な負担になる可能性も考えられる。②
	5 資料・その他	○ 児童の作品例が多くのもっていることで児童にとってモデルとしながら学習を進めることができるが、その例に使われている児童の文字が小さく、読みにくさを感じる。①

令和2年度使用教科用図書選定にかかる専門調査会調査結果（第4地区）

書 写		教育出版
総 評		<p>学年を通して、学ぶ過程が「考える・学ぶ・生かす」の流れになっており、どの単元も問いを持って、学習ができるようになっている。これは、主体的で対話的な深い学びの実現に適していると考えられる。さらに、書写と私生活とを繋げる工夫がされており、学んだことを日々の生活に生かすことができるようになっている。また、「始筆・送筆・終筆」などの用語や、点画や文字のバランスについて学習することを大切にしており、正しい書き方を学べるものとなっている。</p> <p>しかし、掲載されている文字の量やページの割り当てなど見やすさの工夫をしていく必要がある。</p>
特に優れている点	1 大阪市教育振興基本計画等との関連	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の流れが、考える・学ぶ・生かすとなっており、主体的・対話的で深い学びが実現できるような工夫がされている。③ ○ 児童の発達の段階や特性を踏まえ、学んだことを積み重ねていけるような編集構成になっている。④
	2 内容の取扱い	<ul style="list-style-type: none"> ○ えんぴつの持ち方について、おはしの持ち方と比較しながら、正しい持ち方を学べるように工夫されている。① ○ 各単元で「考えよう」「ここが大切」「生かそう」の流れで、学習を進めることで、点画の書き方や文字の形、文字の組み立て方を考えながら、正しく学べる配慮がされている。② ○ 日常生活のどの場面でどの筆記具を使うと、文字が読みやすいのかが「ノートを書く場合」を例に扱っている。このことで、学んだことを次に生かせるような工夫が行われている。⑦ ○ これまで学んだ知識・技能面を振り返り、次の学習へ繋げられるよう、教科書に直接書くことができる欄を設けている。例えば、4年生の10ページに「始筆」「送筆」「終筆」の振り返りができる欄がある。⑤ ○ 文字の大きさや配列を意識して書けるよう、半紙に書いた時の文字のバランスが4文字のバランスがわかるようになっている。
	3 外的要素	<ul style="list-style-type: none"> ○ 文字の大きさ・フォント・行間などは、児童が見やすいように大きく使われており適切である。② ○ 文字の色づかいは、大切なことが緑色を中心に扱うことで、どこを中心に見ればよいか分かりやすくなっている。④
	4 構成・配列	<ul style="list-style-type: none"> ○ どの学年も1ページ目に、私生活や他教科で扱われている書写と関連した資料が掲載されている。このことで、教科横断的な視点を持って、学習が進められる。① ○ 学んだことをすぐに生かせるように、硬筆の活用場面が掲載されている。例えば、2年生では「絵本の感想」、4年生では「理科ノートの書き方」について触れている。①
	5 資料・その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1年生の資料として、付属されている水書用紙が大きく扱いやすいものとなっている。
特に工夫・配慮を要する点	1 大阪市教育振興基本計画等との関連	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安全な社会を実現するための配慮として、防災・減災に関するポスターや、家庭と連携できる手立てなどがあれば、さらに良い。
	2 内容の取扱い	<ul style="list-style-type: none"> ○ 書く速さについての指導がもっとできるように、学年に応じた資料があるとさらに良い。
	3 外的要素	<ul style="list-style-type: none"> ○ ページが見開きになっておらず、1時間の学習内容がわかりにくい。 ○ 文字数が多く、伝えたいことが多くなっている印象がある。なので、もう少し厳選するとさらに良い。
	4 構成・配列	<ul style="list-style-type: none"> ○ 振り返りが言葉で記述できるような工夫がされていれば、さらに良い。
	5 資料・その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1ページ目で掲載されている私生活と繋げる資料と、書く学年で書写を学んで活用ができる場面とを繋げられたら、さらに良い。

令和2年度使用教科用図書選定にかかる専門調査会調査結果（第4地区）

書 写		光村図書出版
総 評		<p>学習内容が見開き1ページになっており、とても扱いやすいものとなっている。また、学習の流れに沿って、「たいせつ」「ふりかえり」のコーナーが活用できるようになっているため、正しい書き方を学び、しっかりと振り返る活動を取り入れられるようになっている。さらに、学習した内容を家でも振り返ることができるように、QRコードも採用されており、自ら学ぶ姿勢を身に付けるための手立てがある。</p> <p>他教科との関連資料が多く学んだことを日々の生活に生かすことができる反面、毛筆や硬筆で学ぶことができる資料の数に物足りなさを感じる。</p>
特に優れている点	1 大阪市教育振興基本計画等との関連	○ QRコードを掲載することで、書き方の動画を家でも見られるようになっている。このことは、家庭でも自学できる主体的な学びへと繋がられる工夫である。
	2 内容の取扱い	<p>○ 文字の形や大きさ、配列が正しいものと間違っているものを比較して、学習しやすいようになっている。⑥</p> <p>○ 「始筆」「送筆」「終筆」など大切なところ、注意するところに各学年で統一したキャラクターを用いることで、正しく学ぶ工夫がされている。②③⑤</p> <p>○ 書く速さについて、見開き1ページでわかりやすくまとめられている。例えば、5年生のP.10 P.11では、イラストを用いて具体例を取り入れることで、比較しながら考えることができる。⑦</p> <p>○ 毛筆を学ぶ学習の流れが、右ページが本時の考えるべき課題、左ページがお手本の字というように、1時間でどんなことに気をつけて、字を書いていくのかが明確になっている。⑤</p>
	3 外的要素	<p>○ 文字の大きさが大きく、大切なことがはっきりとしており、わかりやすい。②</p> <p>○ イラストでの説明が多くなっており、言葉で理解しにくい児童にとっても理解しやすいものとなっている。④</p>
	4 構成・配列	<p>○ 私生活で生きる書写の学習の流れになっている。例えば、2年生ではれんらくちょうの見やすい書き方の資料を取り入れ、学んだことをすぐに活用できるようになっている。①</p> <p>○ 1時間の学習で、「たいせつ」「ふりかえり」のコーナーがあり、学んだこと、まだ十分理解できていないことを自分自身で見直せるようになっている。②</p>
	5 資料・その他	○ 2年生の書写では、1年生の頃から登場していたキャラクターを自分の字で確認できるようチェックシールがつけられており、学習意欲を引き出し、正しい字が書けるような工夫がされている。
特に工夫・配慮を要する点	1 大阪市教育振興基本計画等との関連	<p>○ 安全な社会を実現するための配慮として、防災・減災に関するポスターや、家庭と連携できる手立てなどがあれば、さらに良い。</p> <p>○ 道徳教育との関連が明確になっていれば、さらに良い。</p>
	2 内容の取扱い	○ 6年生の内容が、書写を日々の学習で活用できるような資料に重点が置かれすぎて、毛筆の内容が薄いように感じる。
	3 外的要素	○ イラストが多くわかりやすい挿絵になっているが、実生活で活用できる書写として、身の回りの字を写真などで表したのもあれば、さらに良いと感じる。
	4 構成・配列	○ 毛筆の内容が、各学年によってばらつきがあるように感じた。高学年になるにつれてお手本となる字が少ない。
	5 資料・その他	○ 書写と他教科の関連として、たくさんの言語活動例が掲載されているが、高学年になるほど資料の内容が多く、どこに焦点を当てて考えたらよいかのわかりにくいように感じる。

令和2年度使用教科用図書選定にかかる専門調査会調査結果（第4地区）

書 写		日本文教出版
総 評		<p>学習の材料として、日本に古くから伝わる俳句や、著名な作家の詩などが例として多く掲載されており、児童の豊かな心をはぐくむ教育の充実に配慮した編集がなされている。また、手本となる文字が大きく示されており、低学年から手本をじっくり見ながら文字の形、組み立て、筆順などを意識して書く学習を進めることができる。</p> <p>一方で、色分けをして「漢字の注意点」や、「学習過程」を示すなどといった「配色による強調」がやや少ないため、「どこが重要なのか」児童によってはわかりづらいと感じることもあるのではと考えた。</p>
特に優れている点	1 大阪市教育振興基本計画等との関連	<ul style="list-style-type: none"> ○ 書写学習の進め方が教科書のはじめに示されており、最後には自己の学習を自己・相互評価して振り返ることを推奨している。それにより単元での学習が主体的・対話的で深い学びになるよう工夫されている。③ ○ 日本に古くから伝わる俳句や、著名な作家の詩などが例として多く掲載されており、児童の豊かな心をはぐくむ教育の充実に配慮した編集がなされている。⑤
	2 内容の取扱い	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1・2年生の「姿勢」に関わる指導ページについて、「かくいちとてのおきかた」の手元の拡大写真があり、全体像だけではなく、細部まで具体的に示されている。① ○ 筆記具の持ち方として、筆・鉛筆だけではなく、フェルトペンの持ち方まで明記されている。① ○ 毛筆での筆圧の変化を筆の大きさの挿絵であらわしており、児童にとって視覚的にその変化をとらえやすい配慮がなされている。⑤ ○ 淡いオレンジ色で毛筆の軌跡を記述していることで、穂先の動きや、筆圧が児童にとって視覚的にとらえやすい記載がされている。⑤ ○ 6年生では「目的にあった筆記具を使おう」で、10種類の筆記具を例として出し、「何を書くのか・何のために書くのか」といった目的に合わせて、色や形を選ぶといった児童が実際に選ぶ時の観点も示されている。⑦
	3 外的要素	<ul style="list-style-type: none"> ○ 低学年では手本となる文字が大きく1ページに書かれており、視覚的にもとらえやすい工夫がなされている。② ○ 1年生から共通のキャラクターが挿絵として用いられており、親しみをもって学習に取り組みやすい。④
	4 構成・配列	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年の目標が教科書のはじめに記述されており、子どもたちが目標をもって書写の学習に取り組むことができるよう工夫されている。①
	5 資料・その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 6年生では漢字の成り立ちや、その歴史的背景、世界の文字についてのコラムページがあり、他の教科とのつながりを意識した構成・配列がみられる。①
特に工夫・配慮を要	1 大阪市教育振興基本計画等との関連	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者に向けての教科書・資料の使い方のページがなく、書写の学習についての家庭に向けての配慮がみられにくい。①
	2 内容の取扱い	<ul style="list-style-type: none"> ○ 筆順が数字にて記述されてはいるが、画数が多い字となるとどの数字がどの場所に対応しているのかがややわかりにくい。色分けするなどの配慮が必要であったと感じる。②
	3 外的要素	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水書きシートが教科書についてはいたが、取り外せるものではなく、水に濡れたまま教科書を閉じてしまうと、教科書がすぐに傷んでしまうのではないかと感じた。名前を書いて、取り外し可能な付属資料として活用できるようであればと感じた。①

する 点	4 構成・配列	○ 日本に古くから伝わる俳句や、著名な作家の詩などが例として多く掲載されているが、児童にとってはなじみの薄いものであるかもしれない。児童が耳にしたことのあるような最近の歌の詩や、国語の教科書に載っているような俳句・短歌などがよりあれば、児童が興味・関心をもって学習に臨めるのではないかと感じた。①
	5 資料・その他	○ ホームページにての動画資料があることの記載はあるが、教科書の初めにその記載があるだけでわかりづらい。どんな資料がホームページにあるのかといった項目があれば児童にとってもより使いやすい。①